

インタビュー お笑いコンビ **ロザン** 宇治原史規さん



皆さん、「ロザン」をご存じでしょうか？ ロザンは、関西地方を中心にテレビ・ラジオ・雑誌・舞台などで活躍している、吉本興業所属の若手お笑いコンビです。そしてそのロザンの"ツッコミ"担当が、現在京大法学部に在籍する宇治原史規さんなのです。彼は「現役京大生芸人」という特殊な肩書きに加え、お笑いにおける独自のスタイルやルックスなど、あらゆる要素で多くのファンから支持を集めています。

今月は特別企画として宇治原さんにインタビューを行い、京大生にはあまり馴染みのない「お笑い芸人」としての経歴、生き様、考え方などを語っていただきました。「一般誌のインタビューはよく受けるけど、京大関係のメディアからインタビューを受けるのは初めてです」と照れ気味に語る宇治原さん、果たしてどんな話が飛び出すのでしょうか。

Road to be a comedian

——まず、宇治原さんが京大に入るまでの経緯と、京大での大学生活についてお聞かせください。

芸人になろうと決めたのは高校の時でした。その頃同級生だった相方（菅広文さん）と、しょっちゅう二人でしゃべって、それが楽しかったからこれで仕事できんかなって思って、じゃあコンビ組んでお笑いやってらえやないか、ということになって。別にそのころから漫才をやってたわけではありませんでした。

でも僕の高校は「大学に行くのが当然」という風潮の進学校で、芸人を目指してる僕でも当然「大学は行くもんや」と思ってました。それなら芸人になって出身大学名を出した時、よりインパクトが強い大学に入ろう、と思ったんです。それで京大法学部を受けよう、と。

でも、高校時代はずっとバスケばかりで勉強してなかったんで、最初、模試を受けた時はE判定でした。でも相方に一度「受ける！」って言ってしまった以上、

合格せんと格好悪いな……と思って、1日11時間勉強してました。自分でもよかったなと思います、あの頃は。

それで入学したんですけど、相方は浪人していたので、1回生の間は特にお笑いの活動をしていませんでした。

イベント系サークルを自分たちで作ったり、他のサークルの奴らと遊んだりしていました。ノート見せてもらったり、試験前に教科書を慌てて買ったりして、一般教養の単位も揃えてましたし、2回生の夏くらいまでは本当に普通の大学生でしたね。

——2回生の夏から、「ロザン」を結成し、本格的に吉本興業の漫才オーディションを受け始めたそうですね。

はい、その頃から月1回のペースでオーディションを受けてました。でも出場組数が多くて、なかなか厳しかったですね。1年半くらいは落ち続けてました。

親にはかなり反対されましたね。それまで大学に入る本当の理由は言ってなかったんです。周囲が就職活動やってるときに、僕だけ就職活動やってないっていうのがばれて、それで「吉本のオーディション受けてる」って言ったら、かなりひどい大げんかになりました。親父が円形脱毛症になってしまうほどでしたよ。

一方で、大学の友人の反応はすごくナチュラルでしたね。「ああ、宇治原は芸人になるんか。なら頑張りや」って感じで、特別な反応はありませんでした。京大生って基本的に個人主義やから、あまり他人の進路とかにはこだわらないんですね。

——オーディションではその学歴を武器にして挑んだのですか？

いえ、僕はオーディション受かるまで学歴を明かさなかったんです。学歴は有効に使えるけど、オーディションは実力で受かっておきたいって思っていたん

■舞台上のロザン（右…宇治原さん、左…菅さん）



ですよ。それで3回生の冬くらいにオーディションに受かって、初舞台を踏んで、ちょくちょく仕事が入り出してはじめて、学歴のことが知られ出したみたいですね。

——その事実はかなりのインパクトを与えたのでしょうか？

そうですね。全然仕事がない頃から、高学歴芸人ということでスポーツ紙が取材に来てくれたり、テレビで取り上げてもらったりしました。肩書きでインパクトを与える、という狙いは見事当たったことになりますね。

で、お金を貰って舞台に立つようになったんです。…まあ1回500円ですけど。最初の頃の仕事はずっと舞台での漫才。それ以外の、バラエティー番組とかの仕事は貰うようになったのはここ数年です。

——やはり人気が出るまでの若手芸人の待遇は厳しいのですか？

僕らはまだええほうやと思いますよ。大学名のインパクトもあるし、相方が男前だというのもあるし。そういうので運良くいろんな仕事が入ったと思います。「高学歴コンビ！」と騒がれて、新人にしては異常な取材量でしたから。もちろんギャラは少なかったですが、でもプロになってからもしばらく時給3500円の家庭教師を続けてましたから、生活には

宇治原さん（ロザン）略歴

1976年、大阪府四條畷市に生まれる。
1995年、京都大学法学部入学。
1996年、高校時代の同級生である菅広文さんとお笑いコンビ「ロザン」を結成。この頃からオーディションを受け続ける。
1998年、プロデビュー。
2002年、上方お笑い大賞新人賞受賞。

現在、法学部9回生（在籍9年目、1年半休学経験あり）。相方の「ボケ」担当・菅さんは現在、大阪府立大在籍。

レギュラー出演しているテレビ番組は「ゲンキ王国」、「どまんかっ!」（以上、関西テレビ）、「クイズ! 紳助くん」（朝日放送）など。

ちなみにコンビ名の「ロザン」は漫画「聖闘士星矢」中に登場する必殺技からとったとのこと。

はみだし
すてーじ

「どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり」。私は「おずずのず おさらがはんぶんわれました」と続けます。（医・4 ROCK）

はみだし
すてーじ

（1月号のgreenさんへ）「どちらにしようかな てんのかみさまのいうとおり」の後は「びっぴっぴっ かきのたね おまけにびっぴっぴっぴっぴっ」だったような気がします。←びっぴっぴっ言いすぎ（笑）（医短・1 そら）

あまり困らなかったですね。

その後、4回生になって、ある程度単位は取ってたんですけど、卒業はしないほうがいいんじゃないか、と迷って。「現役京大生ですよ!」って言ったほうが「京大卒ですよ!」って言うよりもインパクトがあるから、わざと現役という肩書きを残そうと思ったんです。でもそのままズルズルときてしまって、今は結局卒業できんのちゃうかなーという状況になってしまってる。最悪の道ですね（笑）。

As a comedian As an artist

——芸人生活の中で、今までで一番つまかったこと、嬉しかったことは？

初めてのテレビの仕事、あれはつまかったですね。「クワンガクッ」っていう深夜番組^(注1)で、ハンコが1000種類入った什器を押しながら道を歩いてる人に名前聞いて、その名前のハンコを一個ずつ配って行って、全部配りきったらゴール、っていうロケをやったんです。43

時間ぶっ通しで。途中、道頓堀の道端で寝たりしましたよ。

それで「アーテレビ出るってこんなきついんやな」「テレビ怖!」っていう間違ったイメージを抱いてしまいましたね。明らかに異常なのに。でも最初にそのロケがあったおかげで、それ以降きついと感じたことはあんまりなかったです。鍛えられたんですね。

その他にも結構いろんなことをやりました。東尋坊^(注2)から海に裸で飛び込んだり、コインランドリーの乾燥機の中に入って回ったりもしました。乾燥機で回ったVTRは、子供がマネしたらあかんってことで結局放送されなかったんですが。そんなことやらせる前に気付けっちゅうねん!

でも受験勉強を猛烈にやったおかげで忍耐力がついて、大体のことはつまさを顔に出さずに我慢できましたね。ところがそういうのは「つまそうな顔を撮りたい」番組側にとっては不満ですから、よく「お前はリアクションが悪い」って指摘され続けてきました。受験戦争の弊害というやつかもしれませんね（笑）。

嬉しいことは、テレビに映って、家庭

教師の教え子や大学の友達や親が「いつも見てるよ」って言うってくれることです。最近テストで大学に行った時も「いつも見てます」って言ってもらいました。街で声かけられたりもしますが、やっぱり見てもらってるってのは嬉しいですよ。

——人気が出はじめて、いろんな方面で「現役京大生芸人」と見られることについてはどう思いますか？

僕は芸人なんで結局「おもしろかったら勝ち」の世界なんです。

例えば「京大行ってるのに、なんでそんなアホなことやったん」っていうと、普通にアホなことを誰かがするよりは面白いと思うんですね。普通の芸人が裸になるより、京大行ってる僕が裸になるほうがツツコミ甲斐があって面白い。そんなふうに、肩書きを最大限有効活用したいと思っていますよ。目立ったもん勝ちですから。

——宇治原さんは芸人としての活動以外にも、「WEST SIDE」^(注3)の一員としてCDを出すという特殊な活動もされましたね。そういう仕事と舞台の仕事とは、やはり全く違ったものなのですか？

そうですね、もちろん僕自身が最初から歌をやりたかったわけじゃなくて、番組の企画だったんですが、すごく良い機会だったと思います。

芸人でも会社員でも、何の仕事であろうと、「幅」というか、経験って必要だ

(注1) 毎日放送で放送されていた関西ローカル番組。過酷な指令が若手芸人に課され、それが完遂されるまでロケが延々と続く、という壮絶な企画群が話題を呼んだ。

(注2) 福井県にある有名な断崖絶壁。落ちたらかなり危ない。

(注3) 「紳助の人間マンダラ」(関西テレビ)での企画から生まれた、吉本若手お笑いコンビであるロザン、キングコング、ランディーズの3組6人によるダンスユニット。関西の女子高生を中心に絶大な人気を博す。シングル2枚、アルバム1枚を発売し、いずれも関西のヒットチャートを席巻した。

と思うんです。

いろいろ言われるんですよ、否定的なことも。「なんで芸人が歌出すねん」とか。でも僕は珍しい経験ができてよかったなあって思いますよ。今後のネタにもなるし、かなり糧になりました。やはり人間「幅」を持たせることが重要なんじゃないかと思いますね。

——お笑い芸人になるために必要な構成、資質などはあるでしょうか？

僕はすごく人見知りな上にあがり症で、芸人としていい資質を持っているとはあまり思えないんです。でも芸人の中には僕みたいなタイプもいます。結局芸人って仕事は、さっきも言いましたが「おもしろかったらいい」わけで、例えば緊張してネタを忘れてしまったり、セリフをかんてしまったりすることを自分で面白いと思ってネタにすれば、それで全部面白くなるんですよ。

男前とブサイクのやつ、どっちが芸人に向いてるかとかも別にないんです。普通の人間は「男前ですよ」って言われても「いやいや」って答えるところを「そうでしょ、僕男前でしょ」って言ったら面白くなる。ハッキリしゃべれない、滑舌が悪いやつは滑舌が悪いことをネタにすればいい。なんでもありなんです。

自分で楽しめるかどうか、面白くしようと思えるか、それを自分でやりたいと思えるか、それが重要なんですよ。

あと、お笑いの世界では、他の人と性質がかぶっちゃうとダメっていうのがあると思うんです。だからあくまでオリジナルを目指すべき。野球で例えるなら、トップに立つ方法っていうのはホームランを一番打つとかだけじゃなくて、バントを一番うまく決める、というのもある。とにかく、自分が持ってるものを活かして一番になる、っていう意識は持ってないとあかんなと思うんです。僕が他の芸人の持たない「京大生」という個性をどんどん活かしていく、というように。

——高学歴芸人の「先駆者」である宇治原さんに影響されて、第2、第3の高学

はみだし すてーじ

私の下宿のおばちゃん、自称みのもんたの彼女です。



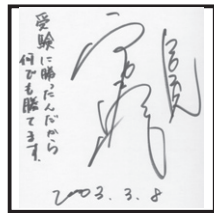
でも、今の仕事があかんかったらもう他の職業に就けんのちゃうかなあ、とも思います。昔オーディション受けてた頃は、お笑いであかんかって5、6回生まで留年して卒業したら就職できるやろって思ってたけど、そろそろこの歳になったら難しいんちゃうかな、と思い始めて。もう、芸人の道を進んでいくしかない状況です。頑張りますよ。

——それでは最後に、京大生へメッセージをお願いします。

京大生はダントツで賢いです。皆さん自信を持ってください。でも、自分で「俺は賢い」とか言うとしたのイヤミですから気を付けてください（笑）。

——ありがとうございました。今後のご活躍を期待しています。

宇治原さん直筆色紙プレゼント!!



宇治原さんの特別メッセージ入りサイン色紙を3名様にプレゼントします（メッセージは3枚とも違います）。

ご希望の方は、読者カードに「色紙希望!!!」と書いてひとことポストに投函してください。当選者は7月号で発表します。

(文・他 RATS&CATS)

はみだし すてーじ

「けっけっけーのけむし もひとつおまけに1・2・3」ですよ!! (どちらにしようかな…の後は) (葉・3 いずる)
⇒以上、「どちらにしようかな」情報3連発。地方色がにじみ出ていますねえ。(次はあなたの街の「大富豪」地方ルールを聞きたい編)